令和６年度 第２回 尼崎２１世紀の森づくり協議会　議事録

日時　令和７年２月２０日（木）14時00分～16時00分
場所　尼崎ﾘｻｰﾁｲﾝｷｭﾍﾞｰｼｮﾝｾﾝﾀｰ ２階小ホール

○委員（出席者12名）　　**（五十音順）**

氏　名	役　　職
井上　公宏	尼崎信用金庫執行役員サスティナブル推進部長
今岡　政彦	尼崎商工会議所総務部長
上田尾　真	(株)神戸新聞社阪神総局長
岸本　幸三	NPO法人尼崎21世紀の森理事
北山　耕司	日本製鉄（株）関西製鉄所尼崎総務室長
小林　拓哉	兵庫県阪神南県民センター長
中瀬　　勲	兵庫県立人と自然の博物館名誉館長
西村　善明	尼崎鉄工団地協同組合特別顧問
宗　　和弘	アマフォレストの会会長
鄭 泰喆（ﾃｲ ﾀｲﾃﾂ）	尼崎青年会議所委員
横田　敏治	尼崎市社会福祉協議会理事
渡邉　明美	尼崎市教育委員会事務局学校教育部長

■資料の確認／事務局

【資料】
資料1　「尼崎21世紀の森構想」今年度の取組状況
資料2　尼崎21世紀の森づくりSDGs推進ガイドブックの更新について
資料3　企業版森の会議について
資料4-1 尼崎21世紀の森づくり行動計画（改訂版）に基づく取組の進捗状況
資料4-2 尼崎21世紀の森づくり行動計画（改訂版）に基づく主な取組の進捗状況　一覧表
資料5　尼崎21世紀の森構想エリアにおける環境学習推進ビジョン（案）
資料6　令和7年度の取組みについて
【参考資料】
参考資料１　尼崎２１世紀の森づくり協議会設置要綱
参考資料２　令和６年度第１回尼崎２１世紀の森づくり協議会議事録
参考資料３　尼崎21世紀の森づくりSDGs推進ガイドブック（令和７年３月更新版）
参考資料４　尼崎21世紀の森づくり行動計画（令和5年3月改訂版）

■会長による開会の挨拶

先日、バイカオウレンを見に三重県から和歌山県の山へ行った。植物観察は桜が咲く4月頃から始める人が多いと思うが、私は毎年、2月から観察している。尼崎の森中央緑地でも2月頃から人々がワクワクするイベントや植栽があると良い。

■報告事項

（１）「尼崎21世紀の森構想」今年度の取組状況（資料1）
（２）尼崎21世紀の森づくりSDGs推進ガイドブックの更新について（資料2）
（３）企業版森の会議の実施結果について（資料3）
（４）尼崎21世紀の森づくり行動計画（改訂版）に基づく取組の進捗状況（資料4-1、4-2）

○資料説明（事務局）

資料1から資料4-2をもとに事務局より説明。

○意見交換

会長：企業版森の会議でゲストスピーカーとして参加された先生は教育学部を出て、大学院は農学研究科、兵庫県立人と自然の博物館では妖怪の研究をされている。また、鳴門の渦潮を世界遺産にする学術研究委員会の委員を務めるなど、ユニークな人である。尼崎21世紀の森構想エリアで面白いことをする場合は、先生に相談すると良い。

委員：資料3に関して、企業版森の会議の企業はどのような基準で選出しているのか。

事 務 局：選出しているのではなく、国道43号以南に事業所がある、または、事業所は無いが尼崎21世紀の森構想エリアで植樹などの活動をしている企業に、このような取り組みをしていることを呼びかけ、希望のあった企業にご参加いただいている。

会長：SDGsの賞を受賞している企業は全部で何社になったのか。

事 務 局：28社になった。

■協議事項

（１）森構想エリア内の環境学習の推進ビジョンについて（資料5）
（２）令和７年度の取組みについて（資料6）

○資料説明（事務局）

資料5から資料6をもとに、以下の内容を事務局より説明。

○意見交換

委員：資料5の25ページに今後の展開として、環境学習に参加したい人向けの取組みやすいしくみづくりと記載している一方で、問い合わせ先が3か所あり、本当に問い合わせたい人からすると、どこに問い合わせたら良いかが分からないかと思う。窓口はある程度絞ると良いのではないか。

事 務 局：基本的には兵庫県阪神南県民センター尼崎21世紀プロジェクト推進室が全てを把握することになるが、環境学習をしたい場所が確定している場合は、尼崎の森中央緑地パークセンターや尼崎市役所に問い合わせてもらうことになる。また、27ページ以降の取組み一覧については、現段階で、名前を公表する承諾を得ていないため、企業名を伏せているが、今後、一覧表に各企業の問い合わせ先を記載していく予定である。問い合わせ先以外に、直接、企業

に問い合わせてもらう方法もある。

委員：全体像をつかむためには、窓口を一本化している方が良いかと思う。

会長：許認可を求める質問や、活動をして良いかという質問など、様々な質問があると思う。例えば、突然、尼崎市に公園などで火を使ったことをして良いかという質問があっても対応できないと思う。多様な質問にどのようにして全体で共有し、対応していくのかを、問い合わせ先として掲載している３者や企業と検討してもらえれば良いかと思う。
問い合わせをする人はすぐに返事してほしい人が多いと思うため迅速性も加味して検討してもらえればと思う。

委員：森づくりは、後世に引き継いでいかないといけないほど非常に長い年月が必要なことであるか思う。いつか誰かに引き継いでいかないといけないことであるので、学習に力を入れていっていただくのが良いと思う。例えば、兵庫県北播磨エリアの学校では、授業の1コマで東条川疏水という疎水の学習をする時間がある。本来は兵庫県全体で取り組むのが良いかと思うが、少なくとも地元の尼崎市教育委員会と連携して、何年生の1コマに尼崎の森づくりの学習をするといった取組みができると広がりができて良いと思う。もし、何か動いているのであれば教えてほしい。

委員：尼崎市環境創造課が、尼崎市内の事業所や団体が取組む環境学習に関する情報が掲載されている冊子を毎年作成している。これまで、紙の冊子を市内の各学校に配布しており、去年あたりからは、ホームページで公表している。資料５の27ページでの企業の取組み一覧は、尼崎市が作成している冊子と内容が重複するため、県と市で連携するなど検討してはどうか。
アマフォレストの会では、尼崎の森中央緑地パークセンターと共に、環境学習で小学校を受け入れている。今年度は小学３年生を対象に17校を受け入れており、1,291名の子どもが訪れた。尼崎市内からは41校中16校訪れており、西宮市から１校訪れた。毎年に１、２校は西宮市から来ている。全学校が植樹をしているわけではないが、今年度は子どもたちが849本の樹を植えた。

会長：先日、アマフォレストの会の方々が環境学習をしている所を見ることがあり、子どもたちが歓声を上げて楽しそうに活動していた。

委員：弊社は、令和６年度に尼崎市のSDGsパートナーに登録された。今年度は、園田中学校と立花南小学校で授業を行った。何故、企業がSDGsを推進していくのかという話の流れで、フィールドワークとして、園田中学校の生徒に、森の小径作りをしてもらった。想像以上に中学生が一生懸命活動をしており驚いた。企業側の方から外部に働きかけていくのが大事かと思う。
教育委員会の接点に関しては、宝塚市の教育委員会から、当庫の森づくりの取組みを見に行きたいと依頼があり、バスを出しても良いと言っていただいている。企業が何故SDGsを推進するのかということを説明するのに良い機

会であると思う。このような機会を増やしていきたいと思っている。

事 務 局：委員からのご質問については、様々なフィールドがある中で、小学校３年生で環境学習の授業で使っていただくことがある。
委員からのご意見について、尼崎市の冊子にも同じようにも載せてもらうことを考えていきたい。
委員よりSDGsに関する取り組みのご紹介があったが、各企業、SDGsや環境学習の取組みの発信を熱心にされ、小学校や中学校と繋がり環境学習をされている企業もある。企業が沢山集積している尼崎南部ならではのSDGsを発信していくことが、地域の魅力と活力を生むものと考えている。

委員：小学校３年生で環境学習の取組みをすることが、兵庫県の取組みとしてある。学習のフィールドは、各学校が子どものニーズや地域との繋がりを踏まえて選んでおり、必ずしも尼崎21世紀の森構想エリアに来ているわけではないが、尼崎の森中央緑地で植樹した木が大きくなったかを見に行くこともあり、この地域での体験が子どもにとっても大きな意義となっている。但し、このエリアへは公共交通機関でのアクセスが難しく、バス代の高騰などで予算が限られているという課題がある。各学年で年間の予算が決まっており、小学校3年生以外で校外学習として訪れることは現実的に難しい。
以前は、環境モデル都市あまがさき探検事業で、小学校4年生が、尼崎の森中央緑地に訪れる機会があり、お世話になった。企業の取組みをより発信していただき、今後も、尼崎21世紀の森構想エリアで子どもたちが訪れる機会を設けていければと思う。

会長：現在の国の環境基本計画には、経済関係の団体と連携することや、ESG投資に関する記載が見られる。資料５の27ページに企業名を公表することで、企業にとってはこの冊子をESG投資の環境に貢献していることを証明するものとして扱えるようになるのではないか。このあたり、金融業の視点から見るといかがか。

委員：今日、カーボンニュートラルなど様々な課題がある中で、企業として貢献できることあるいは貢献していかないといけないことが多い。また、地域貢献をしたい企業は非常に多い一方で、どのようにすれば良いか分からないという企業が多いことが現状である。このような中、尼崎21世紀の森構想エリアに、森の活動ができる場所があることは有難いことである。企業版森の会議が今年度非常に盛り上がった理由は、集まった企業の業種や規模がそれぞれ異なっていても、目指すことが地域に貢献したいということで一致しているからだ思う。国は、国や都道府県単位というより民間の単位で繋がり、ボトムアップ的な動きが出てくることを期待されているのではないかと思う。誰かが音頭を取らなければならないところはあるが、企業版森の会議などを活用して、地域貢献などをしていくことが望ましいかと思う。

会長：企業版森の会議に参加したいがどうしたら良いのかという問い合わせがあっ

た場合、どこに問い合わせたら良いか分かるように工夫すると良いと思う。

委員：海外では、B Corpに認証されると融資してもらいやすいという基準がある。日本の金融機関ではB Corpは評価基準に含まれているのか。

委員：弊社は、昨日、ESG金融の表彰をいただいたところである。環境省と連携して、そのあたりのことを評価していこうとしているのがここ２，３年の動きである。国で、金融機関に横展開してもらいたいという動きがやっと出始めてきた。

会長：資料５のタイトルを「みんなで～するために」「新生の森」「つくる」「繋ぐ森」などの言葉を入れて、読みたくなるように工夫してはどうか。例えば、子どもに繋ぐことや、間伐材が森を繋いでいるなどの意味を含めると「皆で繋ぐ森」という言葉があるかと思う。面白いタイトルを付けて、今記載しているタイトルはサブタイトルにすると良いと思う。
兵庫県の「ひょうごSDGsスクールアワード」は、元々「グリーンスクール表彰」という名称であったが、生態系だけでなくCO2削減に関することや住民参加での取り組みについても環境面から評価できるようにするために名称を変えた。

■その他（各委員の方からのご発言）

委員：尼崎運河でSUPによるごみ拾いを10年以上している。いたちごっことなっているゴミ拾いを効率的に進めるにあたり、人手不足やゴミ回収・運搬などの課題が出てきている。海外の事例を参考に、尼崎運河で3m以内、2馬力位以内のドーナツ型ボートを走らせることができれば、ゴミ拾いが効率的に進むと思う。また、運河の浮遊ごみのほとんどが、陸側から風で流されて運河へ落ちていると思われるため、運河の柵の下にワイヤーなどでゴミを止めるものを設置すれば、ゴミを減らせるのではないかと思う。ゴミが集まりやすくなっている南堀運河に桟橋やゴミ置き場を設置することでゴミの回収や運搬がしやすくなれば、ゴミの海への流出を抑えられる。シービンなどのテクノロジーやボランティアなどの市民参加、周辺企業や行政支援の3つの軸で取り組まないとゴミは無くならないのではないかと思う。

事 務 局：尼崎運河には船舶運搬の役割があり、その役割は衰退してきてはいるものの、現在でも年間4～5千隻が通っている。この状況下で、SUPや清掃活動などといかに共存させていくかということを考える必要があり、現在は、ほとんど貨物船が通らない北堀運河を拠点にしていただいている。委員のご提案については、関係課と相談しながら、行政としてできることはしていきたい。南堀運河については、砂利岸壁があり、活動している企業もあるため、安全面を考えるとSUPは難しいかと思う。安全面についても踏まえながら、できることをやっていきたい。

委員：これまでの環境学習を通して、子どもたちが二酸化炭素や地球温暖化、SDGsという言葉を知っていることが分かり、子どもたちは言葉だけかもしれないが、社会のことを知っていることに驚いた。これまで子どもたちに話していた内容に二酸化炭素や地球温暖化等の言葉を入れてブラッシュアップし、できるだけ様々な事を子どもたちに伝えていきたいと思う。また、木の間伐など体を使う体験も併せて引き続きやっていきたい。
去年は兵庫県立あわじ石の寝屋緑地の見学に行った。今年も兵庫県立明石公園に行く予定であり、他施設を見学しながら、自分たちの見識を深めていきたい。

委員：尼崎の森中央緑地での森づくりがはじまる際に、森ができるとなると動物や虫が来るだろうと考え、16年程前からミツバチを飼い、蜂蜜採集を開始した。蜂蜜の採集ができた当初は、尼崎で採取できたのかと非常に驚かれ、毒が入っているのではと言われることもあったが、現在は、「尼みやげ」に認定され、尼崎の駅前にあるあまがさき観光案内所で、「尼みつ」という名称で販売し、良い評判を得ている。一方で、ミツバチは刺すからと反対している方がいることや、巣箱の数が制限されていること、去年あたりからは天候不良など、蜂蜜の採集が難しい課題はあるが、好評の意見もあるため、頑張って定期的に販売できるようにしたい。

委員：SDGsの推進や脱炭素社会に向けた取組みをしているが、中々皆さんに知っていただけないので、企業版森の会議などを通じてPRしている。製鉄はCO2を非常に多く排出している。鉄鉱石を記号で表すとFe2O3であり、Fe（鉄）にするのにO2（酸素）を取らないといけないので、石炭を入れて、CO2にしてFeを取り出している。これを変えるために弊社では、2050年までにはCO2排出実質ゼロを目指している。炭素に水素を入れて鉄を取り出すことができれば、排出されるのは水になる。現在は技術が確立しておらず、現実できても設備投資をするだけで、我々の企業で5兆円かかる。しかし、製造プロセスを変えれば鉄はとてもクリーンであり、プラスチックはリサイクルの過程で劣化するが、鉄は同じ品質で100％リサイクルできる。このようなことをPRしながら、企業版森の会議でも他社との連携を通じて様々な活動をしていきたい。

委員：森づくりと言いながら、協議会では大量の紙の資料があることに違和感があるため、パソコンやタブレットを使用するのを検討いただきたい。
環境などの活動を推進していくのは、民間の力でやっていかないといけないのかなと思う。日頃からアマフォレストの会の皆さまに協力いただいており、企業版森の会議でも新しい繋がりができている。皆で繋がることが大事だと思うので、その繋がりを活かして次年度も取り組んでいきたい。

委員：市民・企業・行政が活動し、時には連携し様々な活動がされていることに感銘を受けた。当初、阪神淡路大震災の復興のシンボルプロジェクトであった

尼崎21世紀の森構想は、今は県庁では同じような位置づけではなくなっているが、この地域でしっかり根付いているプロジェクトになっている。これだけ活動の輪が広がっていることをもっと発信していかないといないと実感した。尼崎21世紀の森構想の存在自体知らない人もいるので、活動の量に見合った広報を行い、関わることにメリットを感じてもらい、活動の輪を更に広げていくことが大事だと思う。企業が取り組んでいることを紙だけでなくデジタルで見える化していくことが考えられる。また、資料５の問い合わせ先には、Q&A的にこういうことをしたい人はここに問い合わせててくださいという形に細分化してもあっても良いかと感じた。

委員：総合学習で調べものをすることや、国語や社会、家庭科など様々な教科で環境について学習していることが、子どもたちのこれからの生きる力の基礎になっていると思う。尼崎21世紀の森構想エリアでは、様々なイベントがあり、学校で訪れた子どもたちが、家族と共にイベントに訪れ、家族と環境などについて考えることに繋がっている。また、企業による出前授業などは、アンテナの高い教員はすぐに飛びつき、それが次は口コミで広がる。そして、そこから子どもたちが調べ学習をすることや、家に帰って家族に話して広がっていくことに繋がる。このような機会を沢山いただけることは学校現場としては有難く、今後も色んな方と繋がり、子どもたちを一緒に育てていければと思う。

委員：兵庫県や尼崎の森中央緑地パークセンターと協働で、毎年森の文化祭を行っており、今年で10回目になる。警察や消防、地区内にある企業や団体の協力をいただき、子どもたちに体験やものづくりなどをする計画を進めているが、物価や人件費の上昇により、予算内で開催する難しさを感じているところである。ここにおられる皆さまにも是非、森の文化祭に来ていただければと思う。もし、企業さんにも協力をお願いした時には良い返事をいただけると有難い。

委員：平成21年から尼崎の事業所で事業をしているが、正直、この尼崎21世紀の森づくりについては、今回、協議会に参加するにあたり始めて知った。元々、地元愛が強い方や、意識の高い方の間では浸透していると思うが、事業を発展させていく上では、賛同者が多い方が良いと思うので、意識が無い方へのPRについても検討いただけると良いかと思う。当団体の発足の目的にはまちづくりというところがあるので、当団体内部で共有し当団体としてもまちづくりに何かしら貢献できたらと思う。

委員：令和６年から７年の２カ年で、会員企業の９％にあたる3,600社に「ひょうご産業SDGs推進宣言」に登録してもらおうと、兵庫県下にある18の団体と連携して進めている。幸い尼崎市の方でも宣言に関する制度があるため、それもカウントしても良いことになっている。現在、尼崎市内での登録は目標の50％を達成しており、引き続き令和７年度においてもSDGsキャンペーンに取り組む予定である。

委員：学習ということであれば、まずは知ってもらうことが大事であり、これは我々の務めであると思う。市長が先導を切って尼崎市として子ども・子育てに関する取り組みに力を入れている今こそ、尼崎21世紀の森構想エリアの取り組みを広げていくチャンスだと思う。また、小学校３年生だけでなく、中学生になったら年下の子どもに教えるという学習の方法がある。教えることの方が難しく、勉強になり身に付く。新聞の記事を書かせていただけるよう、引き続き推進に向けて取り組んでいただければと思う。

会長：妻が赤ペン先生をしていた頃があり、兵庫県の子どもだけすぐ分かると言っていた。それは、子どもたちが自然学校のことを書いていたからで、兵庫県は面白い地域であることが何年も前から表れていた。
国では、「環境モデル都市」として、川崎市、四日市市、津市、水俣市、北九州市等、昔、公害問題があった都市を指定している。尼崎市も環境モデル都市として選定されており、現在、このような様々な活動が進められていることは素晴らしいことだと感じている。
兵庫県のある市の高校の運営委員をしており、最近の高校では文科省からの要請もあり、地域のことを勉強して発表する授業をしている。先日、温暖化を勉強している高校生が、温暖化で如何にお金を稼ぐかについて発表しており面白いと思った。今までの一律の教育ではなく、自主的に地域のことを考えて活動する方向性にシフトしてきている。この動きが今後、中学校や小学校にも波及してくると思う。このようなことから、尼崎21世紀の森構想エリアにおける環境学習の推進ビジョンを示すことは、良いことをしていると思った。
予算の話が多く挙がっていたが、提案として大学の先生を有効活用してはどうか。文科省は科学研究費というものを持っており、先生と連携して、地域課題を解決していくことでこの費用を活用できる。また、国の環境基金や公益財団法人ひょうご環境創造協会が行っている基金など、県や市だけでなく、外部資金をどう活用するのかということの議論も活性化すると面白いかと思う。
皆さん、自分のライフステージ、ライフプランを作りながら、ここで楽しんでいただけたらと思う。

委員：運河での提案に対する事務局からの返答に関して、安全性の確保という視点から課題があるように言われたが、尼崎運河でSUPの活動を10年以上してきており、500回以上運河を回船し、延べ4,000人にSUPを教えてきたが、一度も事故を起こしたことはない。また、砂利船が航行する場所は把握しており、そこに関して意見を述べたわけではない。安全性に問題があるという印象を皆さんに与えるような発言はやめてほしい。

■閉会

以上